

を目的とした。また、サイトアクセス数解析から、利用者のページ閲覧動向、メディア等の HIV/エイズ報道によるアクセス数への反響等を調査することで、より効果的な HIV 検査体制のあり方を考査するための参考資料とすることを目的とした。

B. 方法

保健所等 HIV 検査機関および研究班の即日検査研究協力機関である民間クリニックの HIV 検査情報等を提供するホームページ「HIV 検査・相談マップ」を作成し、PC 版サイトおよび携帯版サイトを開設した。PC 版サイトは 2001 年 9 月に開設し、携帯電話版サイトは 2003 年 4 月に i-mode 版を開設、2004 年 3 月からはすべての携帯電話からのアクセスを可能とした。2009 年 10 月には PC 版サイトおよび携帯版サイトともにリニューアルを行い、本年度は更に掲載方法の改良および掲載内容の充実を図った。また、ホームページによる HIV 検査機関の情報提供の効果を調査するため、Google Analytics を用いて PC 版および携帯版のページアクセス数を調査した。

C. 結果

本年度は、昨年 10 月に実施した PC 版サイトおよび携帯版サイトのリニューアルに伴い、PC 版サイトにおいては、検査イベント情報の表記方法の改変、条件検索に「クリニック・医療機関」検索を追加、HIV 検査 Q&A に「自己検査キット」の注意喚起の設定を追加、当サイトへのリンク用バナーの作成等の改良を行った（図 1、図 2、図 3）。また、リニューアルに伴い、アクセス解析システムの変更により不具合が生じていた PC 版サイトの「検索条件別（即日検査、土日検査等）アクセス数」、「地域別（都道府県）アクセス数」（図 4）および携帯版サイトの「トップページアクセス数」（図 5）について解析システムの改良を行い、これらについて集計・解析が再び可能と

なった。

本年度の情報掲載施設からの情報修正依頼件数は 419 件、検査イベント情報の掲載依頼件数は 52 件、新規掲載施設件数は 27 件であった（図 6）。

PC 版サイトの 2010 年の年間アクセス数は 61 万件で前年比 3% 減、サイト開設以来、最もアクセス数の多かった 2008 年と比較すると 29% 減となった。1 日平均アクセス数は約 1,690 件であり、2010 年 12 月末における総アクセス数は 605 万件となった（図 7）。月別トップページアクセス数をみると、6 月までは前年度よりも下回った月が多かったが、7 月以降は前年度を上回り、特に 7、8 月は前年同月比 30% 増となった（図 8）。

PC 版サイトのアクセス情報の詳細を 2010 年 11 月について見たところ、11 月のトップページアクセス数は 52,499 件（延べ数）、ユニークユーザ数 40,177 件（うち新規ユーザ数 24,250 件（60%））、全ページアクセス数 254,492 件、閲覧者平均ページビュー数 6.34 ページ（一般サイト平均 3 ページ）、閲覧者平均サイト滞在時間 5 分 3 秒、直帰率 30.72%（一般サイト平均 60-70%）であった。参照元は Yahoo! や Google の検索サイトからが 62% を占めた。アクセス地域は日本が 97% であったが、外国からのアクセスも 3% ほどあることが分かった（図 9）。

日別トップページアクセス数を見たところ、2008 年では 1 日 3,000 件（2010 年での日別平均アクセス数の約 2 倍）を超えた日が 37 日あったが、2009 年では 7 日、2010 年も 7 日であった。例年であればエイズ動向委員会や世界エイズデー付近ではアクセス数が増加していたが、本年も 2009 年に引き続き顕著な増加はみられなかった（図 10）。

6 つの検索条件別（即日検査、土日検査、夜間検査、予約不要、その他性感染症検査、クリニック・医療機関検査）のアクセス数を見たところ、「即日検査」が最も多く、次

いで即日検査の約半分の件数で「土日検査」、
「その他性感染症検査」、「予約不要」と続
いた（図11）。

地域別アクセス数では、東京都が最も多
く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県、埼
玉県、千葉県と続いた（図12）。

携帯版サイトは、2010年6月からトップペー
ジアクセス解析が可能となり、2010年6月から
12月までのアクセス数は23万件であり、比較
可能な2008年6-12月と比べると36%減となっ
た（図13）。月別アクセス数をみると、8月は
前年のアクセス数を上回っていたが、その他
の月は過去4年間で一番少なかったことが分
かった（図14）。日別アクセス数では、携帯
サイトはPCサイトの約1/2のアクセス数で、ア
クセス数の推移は同傾向を示していたことが
分かった（図15）。

携帯版サイトページ別のアクセス数を見た
ところ、一番閲覧数の多かったのは「HIV検査
Q&A」ページであり、「検査施設を探す」ペー
ジや各携帯端末のトップページよりも件数が
多かった（図16）。

D. 考察

PC版サイトの2010年の年間アクセス数は61
万件で前年比3%減、サイト開設以来、一番ア
クセス数の多かった2008年と比較すると29%
減となった。減少の要因としては、2009年の
新型インフルエンザ流行によるHIV/エイズ情
報への関心の低下および2009年に実施したリ
ニューアルに伴う一定期間の情報更新停止の
影響が続いていると思われた。

日別トップページアクセス数の解析では、
2008年では1日3,000件を超えた日が37日あっ
たが、2009年では7日、2010年も7日と、本年
も前年に引き続き顕著な増加は見られなかつ
た。以前であれば、エイズ動向委員会発表や
世界エイズデー付近ではHIV/エイズ報道が多
かったが、近年は減少傾向であること、また、
受け取り側のHIV/エイズ報道への関心の低下

が原因と思われた。

検索条件別アクセス数では、「即日検査」
が最も多く、次いで「土日検査」、「その他
性感染症検査」、「予約不要」と続いていた
ことから、閲覧者は即日検査の希望者が多
く、また、HIV以外の性感染症検査について
も要望が多いことが示唆された。

地域別アクセス数では、東京都が圧倒的
に多く、次いで大阪、神奈川と大都市中心
の閲覧であるが、現在全く情報を掲載して
いない14県についても順次整備していき
たいと考えている。

PC版サイトは約9年間の総アクセス数は
605万件に達している。今後も検査希望者に
有益な情報を提供できるよう、掲載内容を充
実させていきたい。

携帯版サイトのトップページアクセス数は、
解析可能であった2010年6-12月までのアクセ
ス数は23万件と、比較可能な2008年6-12月と
比べると36%減となっていた。新型インフル
エンザ流行年の2009年においては、リニュー
アル前の2009年5-9月のアクセス数は2008年
同月比で4%減であり、新型インフルエンザの
影響はほとんど見られなかったことから、本
年度の携帯サイトアクセス数の減少は、アク
セス解析システムの差異の可能性が高いと思
われた。携帯版サイトページの閲覧数で最も
多かったのは「HIV検査Q&A」ページであつた
ことから、HIV検査に関する知識を得るため
に本サイトを閲覧している人も多しと思われ
た。携帯端末は誰でも手軽に利用が可能であ
り、若年者を中心としたユーザの増加も伺え
ることから、携帯版サイトの情報提供の充実
およびアクセス数の動向を注視していきたい
と考えている。

ホームページは継続して、より多くの人
に情報を提供する手段として非常に有効であ
る。HIV相談検査事業の情報提供、HIV検査に
関する正しい知識の普及のためにより実用
性の高いサイトとなるよう、今後も掲載情
報内容の

充実に力を入れて行きたい。

マスコミ等での紹介

【インターネットサイト】

* 「夏の終わり、保健所で「HIV 検査」を体験してきた」web R25 2010.8.30

(サイトアドレス紹介)

【マニュアル・リーフレット】

* 知ってる？

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染予防個別施策層における予防情報アクセスに関する研究」班

(サイトアドレス紹介)

(※マスコミ等での紹介は研究班で把握しているもののみ記載してあります。)

図1

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 修正・追加箇所(2010年)

The screenshot shows the homepage of the HIV testing and consultation map. Several areas are circled and annotated with callouts:

- 「検査イベント情報」開催日表記終了表記**: A callout pointing to the 'New Event Information' section, which lists dates for various events such as '2010年12月6日開催' and '2010年12月11日開催'.
- 「条件から探す」クリニック・病院追加**: A callout pointing to the search filters on the right, including checkboxes for '検査結果を即日通知', '土日検査が可能', and 'クリニック・医療機関での検査'.
- 「HIV検査Q&A」自己検査キットの追加**: A callout pointing to the 'HIV検査Q&A' section, which includes a link to 'HIV検査のまめ知識' and a QR code for a self-test kit.
- 「バナーページの作成」**: A callout pointing to the 'リンクについて' section at the bottom of the page.

図2

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 「HIV検査Q&A」にHIV自己検査キットの設問の追加

The screenshot shows the homepage of the HIV testing and consultation map, specifically the 'HIV検査Q&A' section. A new question has been added to the list:

Q ネット上で自分で検査できるHIV自己検査キットが販売されていますが、使用して問題ないでしょうか？

A 使用はお勧めできません。
ネット上で販売されるものの中には、健康や生命に関連するものがあります。近年、自分で採血・判定まで行けるHIV自己検査キットがネット上で多数販売されていますが、病気の診断を行うには、良い性能の製品を正しく使用しないと、正しい結果が得られず、却ってその後の治療や生活、周囲への拡大防止にマイナスの影響を及ぼします。現在、厚生労働大臣が性能や安全性を審査し、流通を認められたHIV自己検査キットはありません。また、そのようなものを宣伝広告することも禁止されています。ネット上では購入は自分自身の責任でと知り書きをつけて、実際は一般の雑貨と同じように購入を断ってください。
ネット上で販売されている自己検査キットのほとんどはチェック機能の整った先進国で許可されていません。さらに、ネットから送付されるものは自己使用向きではなく、医師など専門家を使用するためのものや、研究用です。品質管理が行き届いた施設で製造されている保証もなく、偽造品だったこともあります。使用法や判定法の説明も不十分で、一般人が正しく使用できるか疑問があるもの、また、偶発性や偽陽性を示すものもあります。使用者に対して、使い方が分からない時や異なる結果が出たときのカウンセリング体制もありません。
日本では保健所や専門検査施設、一般の医療機関で専門家の助言を受けながら、信頼できる検査が受けられます。面談からまず、恥ずかしがらず、信頼できる検査を受けましょう。それが貴方自身を一番幸せにし、家族や友人の幸福にもつながります。
(研究担当 木村和子)

図3

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 リンク用バナーページの追加

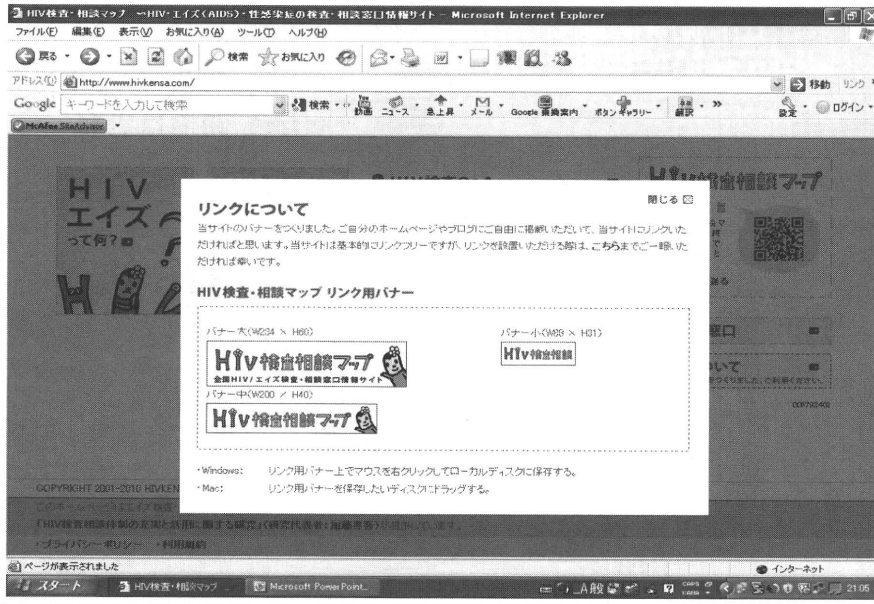


図4

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 アクセス解析項目 (PCサイト)

旧サイト (Access Analyzer4)	新サイト (Google Analytics)
・トップページアクセス数 (アクセス数) (→アクセスカウンターと一致)	・トップページアクセス数 (→アクセスカウンターと一致せず)
・新規ユーザーアクセス数	・新規ユーザーアクセス数
・リピートユーザーアクセス数	・リピートユーザーアクセス数 } セッション数
・検査種別(土日、即日等)アクセス数	・検索条件別(即日、土日等)アクセス数
・地域別(東京、大阪、神奈川等)アクセス数	・地域別(都道府県)アクセス数
・ページアクセス数(全ページ、詳細ページ)	・ページアクセス数(全ページ、詳細ページ)
・検索キーワード	・検索キーワード
・参照元	・参照元
・ユーザー環境	・ユーザー環境
・平均ページビュー数	・平均ページビュー数
・平均サイト滞在時間	・平均サイト滞在時間
・直帰率	・直帰率
・アクセス地域	・アクセス地域

図5

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 アクセス解析項目(携帯サイト)

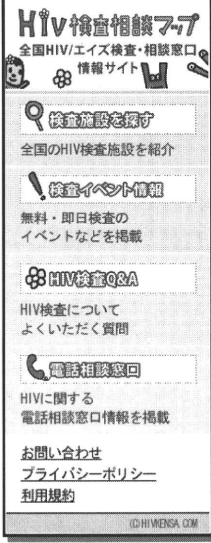
旧サイト (Access Analyzer4)	新サイト (Google Analytics 2010.6~)	
<ul style="list-style-type: none"> ・トップページアクセス数 (アクセス数) ・全ページアクセス数 (ただし、解析ソフトの不具合で全日のデータ揃わず) 	<ul style="list-style-type: none"> ・トップページアクセス数 (アクセス数) ・新規ユーザーアクセス数 ・リピートユーザーアクセス数 ・セッション数 ・ページアクセス数(全ページ、詳細ページ) ・検索キーワード ・参照元 ・ユーザー環境 ・平均ページビュー数 ・平均サイト滞在時間 ・直帰率 ・アクセス地域 	

図6

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 情報修正・検査イベント掲載・新規掲載依頼件数

<情報修正依頼件数 419件>

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
148	97	22	28	18	35	22	13	8	28

<検査イベント情報掲載依頼件数 52件>

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	4	7	3	1	0	2	16	17	1

<新規掲載施設件数 27件>

新潟県(9)、島根県(8)、宇都宮市、浜松市、和歌山市、徳島県三好保健所
東京都多摩地区検査・相談室、尼崎市、姫路市、セントラルクリニック伊勢崎、
川嶋泌尿器・皮膚科医院、中村クリニック

図7

ホームページ「HIV検査・相談マップ」
PCサイトトップページアクセス数（2001～2010年）

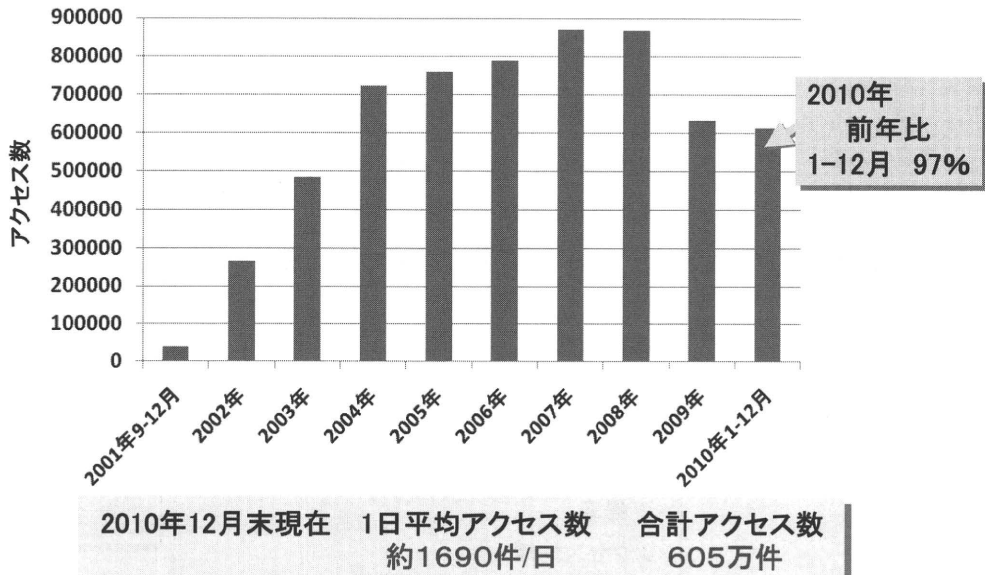


図8

ホームページ「HIV検査・相談マップ」
PCサイト 月別トップページアクセス数（2007～2010年）

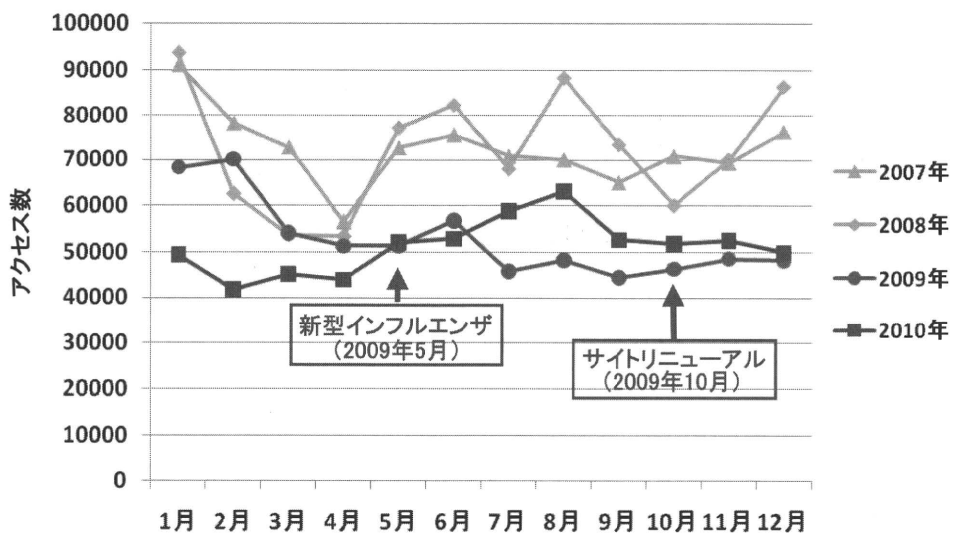


図9

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 PCサイトアクセス解析項目 (2010年11月1日～30日)

- ◇ トップページアクセス数 52,499 (トップページ閲覧者の延べ数)
- ◇ セッション数 40,177 (全ユーザーによって行われた個々の訪問数、30分以上で別セッション)
- ◇ 新規ユーザーアクセス数 24,250 (60%)
- ◇ リピートユーザーアクセス数 15,867
- ◇ 全ページビュー数 254,492 (新規:154,060、リピート:100,432)
 - 1. トップページ 46,784、2. 検査まめ知識 11,641 3. 検索 9,345 4. Q&A 8,676 5. HIVって何? 8,352
- ◇ 平均ページビュー数 6.34 (新規:6.35、リピート:6.33) (*一般平均 3)
- ◇ 平均サイト滞在時間 5分3秒 (新規:4分56秒、リピート:5分12秒)
- ◇ 直帰率 30.72% (新規:28.87%、リピート:33.55%) (*一般平均 60-70%、40%以下が良い)
- ◇ 参照元 1. Yahoo!(34%) 2. Google(32%) 3. 直接(6.7%) 4. mixi (3.0%) 5. ウィキペディア(2.1%)
- ◇ ユーザー環境(ブラウザ) 1. IE(67%) 2. Safari 3. Firefox 4. Chrome 5. Opera
- ◇ 検索キーワード 1. HIV 2. HIV 検査 3. エイズ 検査 4. エイズ検査 5. HIV検査
- ◇ アクセス地域 1. 日本(96.9%) 2. 英国(0.8%) 3. USA(0.5%) 4. 中国 5. タイ
 - 5位以下 台湾、カナダ、ドイツ、韓国、シンガポール

図10 PCサイト 日別トップページアクセス数 (2008～2010年)

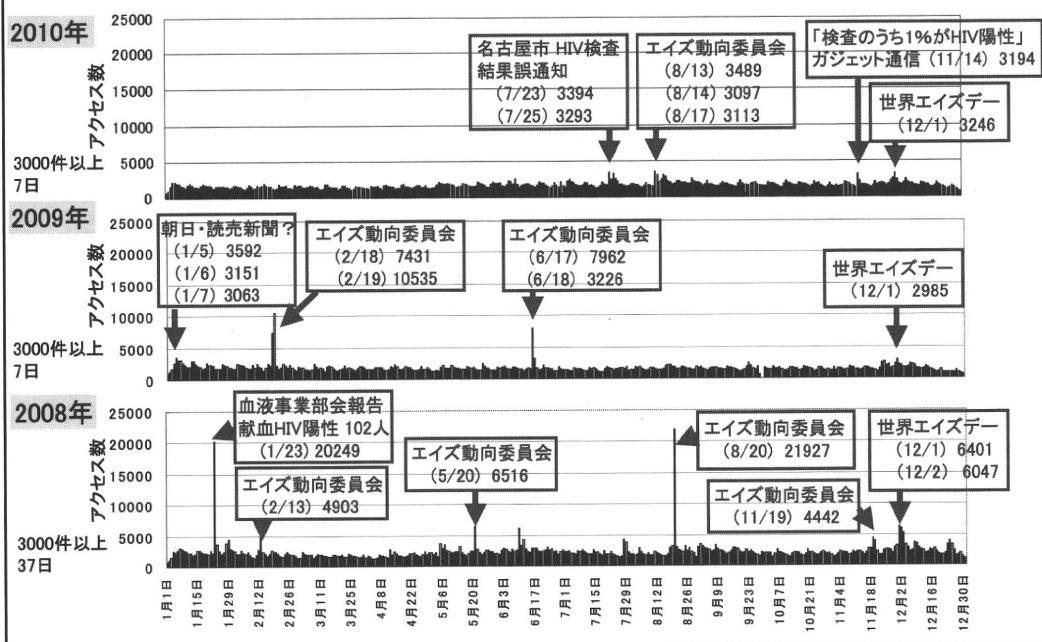


図11

ホームページ「HIV検査・相談マップ」
PCサイト 検索条件別アクセス数 (2010年)

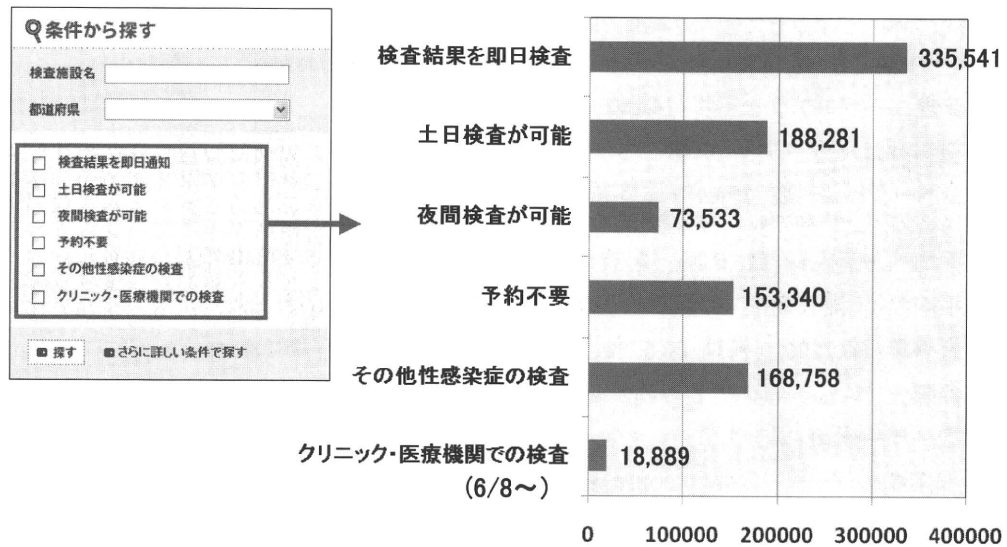


図12

ホームページ「HIV検査・相談マップ」
PCサイト 地域別アクセス数 (2010年)

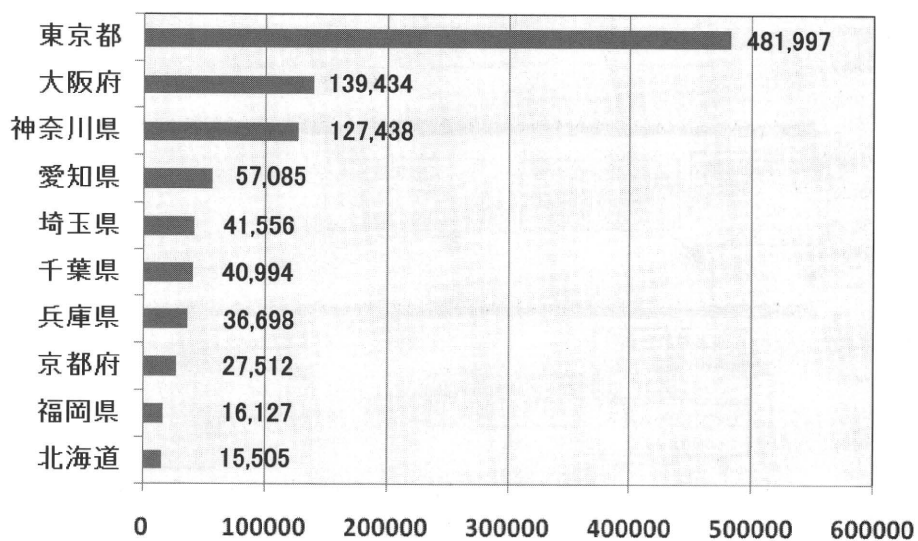


図13

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 携帯サイトアクセス数（2003～2010年）

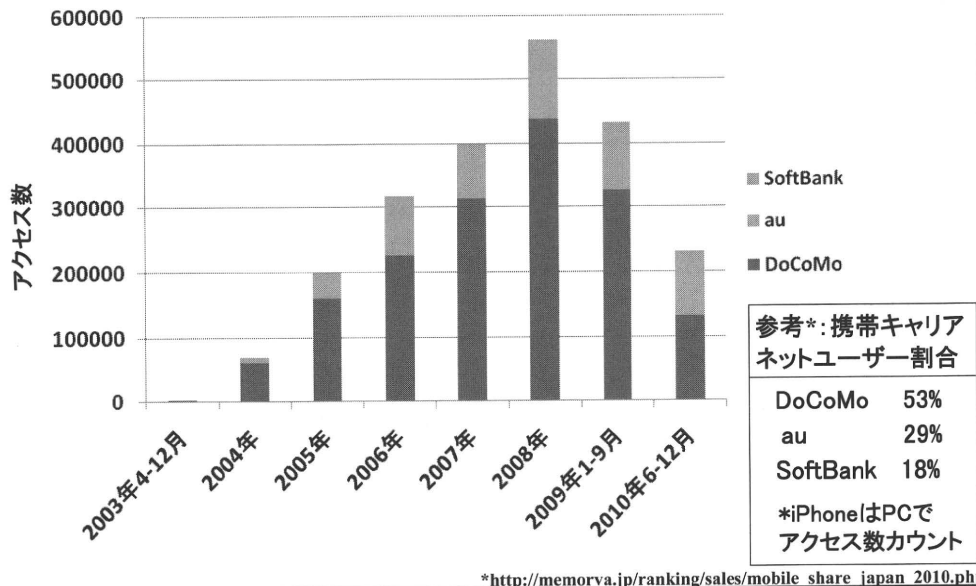


図14

ホームページ「HIV検査・相談マップ」 携帯サイト 月別アクセス数（2007～2010年）

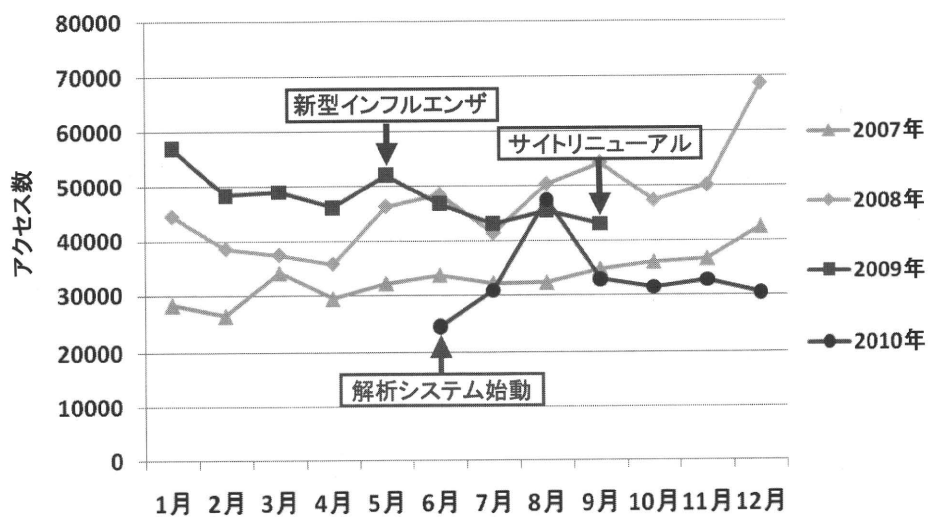


図15 ホームページ「HIV検査・相談マップ」
日別トップページアクセス数（2010年11月1日～12月8日）

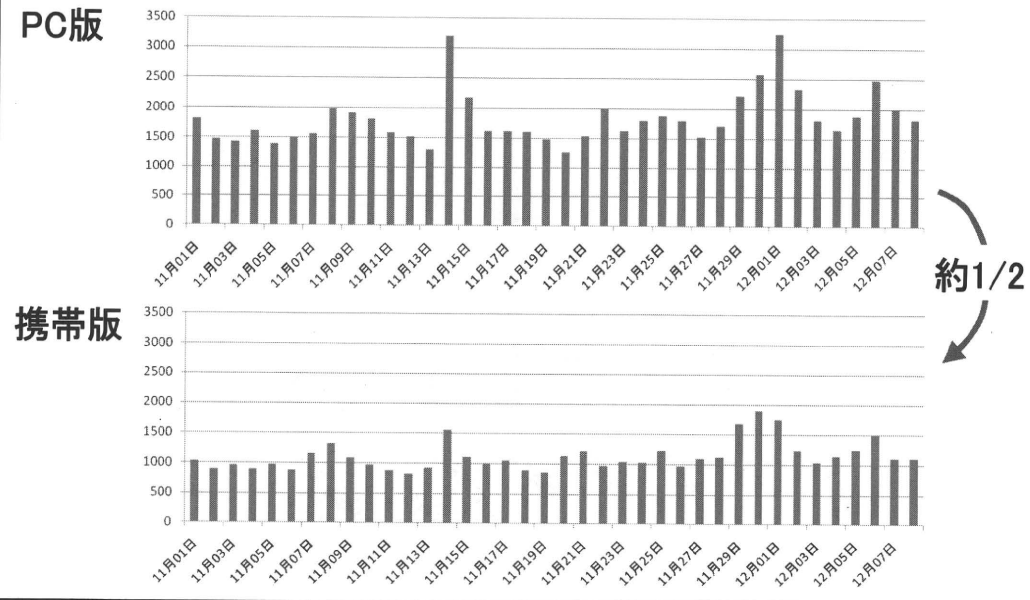


図16 ホームページ「HIV検査・相談マップ」
携帯サイトページビュー数（2010年6月8日～12月31日）

1. /m/q/index.html
「HIV検査Q&A」ページ 140,560
2. /m/s/index.html
「検査施設を探す」ページ 139,741
3. /m/index.html?c=DoCoMo
ドコモユーザー向けトップページ 133,174
4. /m/index.html?c=KDDI
auユーザー向けトップページ 90,692
5. /m/e/index.html
「検査イベント情報」ページ 64,745

9. 民間クリニックへの HIV 即日検査の導入支援および実施状況解析

研究分担者	佐野貴子	(神奈川県衛生研究所)
研究協力者	西大條文一	(丹羽クリニック)
	小林米幸	(小林国際クリニック)
	赤枝恒雄	(赤枝六本木診療所)
	尾上泰彦	(宮本町中央診療所)
	古林敬一	(そねざき古林診療所)
	大里和久	(大里クリニック)
	尾関全彦	(尾関皮膚泌尿器科)
	岩澤晶彦	(岩澤クリニック)
	保科眞二	(保科医院)
	上村茂仁	(ウィメンズクリニックかみむら)
	吉尾 弘	(吉尾産婦人科医院)
	上村 哲	(上村病院)
	江畑貴文	(文化村通りクリニック)
	多和田俊保	(たわだ泌尿器科)
	立山啓悦	(ひろクリニック)
	山中 晃	(新宿東口クリニック)
	山口眞澄	(新宿山の手クリニック)
	大原宏樹	(池袋山の手クリニック)
	鷺山和幸	(さぎやま泌尿器クリニック)
	谷口 恭	(太融寺町谷口医院)
	根岸昌功	(ねぎし内科診療所)
	井戸田一朗	(しらかば診療所)
	白川裕一	(八重洲山の手クリニック)
	西原 仁	(関内マリンクリニック)
	清滝修二	(セントラルクリニック伊勢崎)
	川嶋敏文	(川嶋泌尿器・皮膚科医院)
	中村幸生	(中村クリニック)
	新井律夫	(新井医院)
	澤畑一樹	(三菱化学 BCL)
	川畑拓也	(大阪府立公衆衛生研究所)
	近藤真規子	(神奈川県衛生研究所)
	加藤真吾	(慶応義塾大学医学部)
	今井光信	(田園調布学園大学)

研究要旨

HIV 検査希望者にとって利便性が高い検査相談体制の一つである「即日検査」について、民間クリニックへの導入支援を行うとともに、実施施設における検査数・陽性数等の動向を調査した。

本年度は4箇所の新規導入があり、合計28箇所のクリニックについて実施動向の解析を行った。総検査数は17,358件であり、昨年と比較して検査数は11%減、最も件数が多かった一昨年(2008年)と比較して22%減となった。一方、陽性数は108件(陽性率0.62%)と昨年を上回り、過去最高となった。STIクリニックのみで集計すると、男性の陽性率は0.90%、さらに東京都下のSTIクリニック9箇所で集計すると、陽性率は0.95%となり、一昨年と比較して検査数は18%減であるにも関わらず、陽性数は29%増となった。

陽性例の結果受け取りや保健所への届出等の状況は、陽性例108例中101例(94%)が確認検査結果の受け取りに来ており、このうち47例は自施設で経過観察、45例は紹介先拠点病院への受診が確認された。また、保健所への届出は、95例(88%)が自施設から届出、11例が紹介病院に届出を依頼していた。

民間クリニックは有料であるにも関わらず、医療機関という安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、多くの検査希望者が即日検査を受検している。また、STIクリニックは他の性感染症の罹患者が多く来院することから、HIVの早期発見・早期治療に繋げるには、民間クリニックでの即日検査の実施は非常に効果的であると思われる。今後もSTIクリニックへの即日検査の導入を積極的に行っていきたいと考える。

A. 目的

より効果的なHIVスクリーニング検査体制を構築することを目的として、HIV検査希望者にとって利便性が高いHIV検査相談体制の一つである「即日検査」について、民間クリニックへの導入支援および実施施設における検査数・陽性数等の動向を解析した。

B. 方法

HIV検査に理解のある民間クリニックと連携して即日検査の導入・実施支援を行った。

新規導入クリニックには即日検査の説明や迅速検査キットのデモンストレーション等をクリニックに訪問して実地研修を実施した。即日検査の研究協力クリニックはホームページ「HIV検査・相談マップ」に掲載し、即日検査の判定保留例について確認検査等の支援を行った。研究協力クリニックには検査数等の報告を依頼し、動向を調査した。また、確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出等のフォロー状況に関するアンケート調査を実施した。

C. 結果

2010年は4箇所の新規クリニック(群馬1箇所、神奈川1箇所、大阪1箇所、埼玉1箇所)に即日検査の導入支援を実施し、合計28箇所(東京11箇所、神奈川4箇所、大阪4箇所、札幌2箇所、愛知1箇所、福岡1箇所、京都1箇所、岡山1箇所、沖縄1箇所、群馬1箇所、埼玉1箇所)が即日検査の研究協力クリニックとなった

(図1)。28箇所での即日検査数は17,358件であり、クリニック数は増加したものの、昨年と比較して検査数は11%減、最も件数が多かった一昨年(2008年)と比較して22%減となった。一方、陽性数は108件(陽性率0.62%)と昨年を上回り、過去最高となった(図2)。偽陽性数は63件(偽陽性率0.37%)であった。陽性108例の性別はすべて男性であり、国籍は日本国籍103例、外国籍4例、不明1例であった。

2010年の検査数・陽性数を、「STIクリニック」と、女性の感染不安者やCSWの定期検診が中心の「婦人科クリニック」で分けて解析したところ、STIクリニックでは、検査数15,915件のうち、陽性数が108件、陽性率は0.68%で

あった(図3)。性別で見ると、男性の検査数は11,985件、陽性数が108件(陽性率0.90%)、女性では検査数が3,915件、陽性数は0件であった。婦人科クリニックでは、検査数が1,443件であり、すべて陰性であった。

過去3年間の検査数・陽性数の推移を見たところ、3年分のデータが揃っているクリニック23箇所での2010年の検査数は、最も検査数が多かった2008年と比較して20%減であるのに対し、陽性数は9%増であった。また、東京都下のSTIクリニック9箇所で見ると、2008年と比較し、検査数は18%減であるのに対し、陽性数は29%増となり、陽性率は0.95%に上った(図4)。

確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出等のフォロー状況に関するアンケート調査を実施したところ、陽性例108例中101例(94%)が確認検査結果を受け取っており、このうち47例は自施設で経過観察、45例は紹介先拠点病院に受診したことが確認されており、合わせて92例(91%)については結果通知後の経過が把握されていた。また、保健所への届出は、95例(88%)が自施設より届出、11例が紹介病院に届出を依頼していた(図2)。

D. まとめ

本年度の総検査数は17,358件と、昨年と比較して検査数は11%減、最も件数が多かった2008年と比較して22%減となっており、HIV検査希望者数の減少が続いている。一方、陽性数は108件(陽性率0.62%)と昨年を上回り、陽性者はすべて男性であった。STIクリニックのみの集計では、男性の陽性率は0.90%、さらに東京都下のSTIクリニック9箇所では陽性率0.95%、陽性数は29%増となっている。HIV/AIDSに関する報道が少なくなっている中、HIVの感染不安の少ない者は受検行動にまで結びつかず、検査数に影響を与えているのに対し、感染不安の大きい者には、検査定員に

余裕があり受検しやすくなっていることが推測される。また、男性においてはHIV感染が拡大傾向とも推察される。

確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出等のフォロー状況については、おおむね良好と思われた。確認検査を受け取った人のうち91%は、その後の経過もフォローされており、HIV検査によって早期のHIV治療に結びついたことは、HIV検査提供側の役割を十分に果たしていると思われる。

民間クリニックは有料にも関わらず多くの受検者が即日検査を受けており、医療機関であることの安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、検査希望者にとって検査を受けやすい機関の一つとなっている。STIクリニックは他の性感染症に罹患している人も多く来院することから、HIVの早期発見・早期ケアに繋げるためには医療機関における即日検査の導入は非常に効果的であると思われる。今後もさらにSTIクリニックとの連携を強化し、即日検査の導入を積極的に行いたいと考える。

また、即日検査実施機関において、さらに質の高い検査機会を提供できるよう、ガイドライン、事例集、マニュアル等の改編を進めていくとともに、検査技術面でも新規迅速検査キットの導入や即日検査の偽陽性を除外可能な検査方法の検討を行い、即日検査実施上の問題点となっている判定保留例への対策を講じ、より良い即日検査実施体制を構築したいと考える。

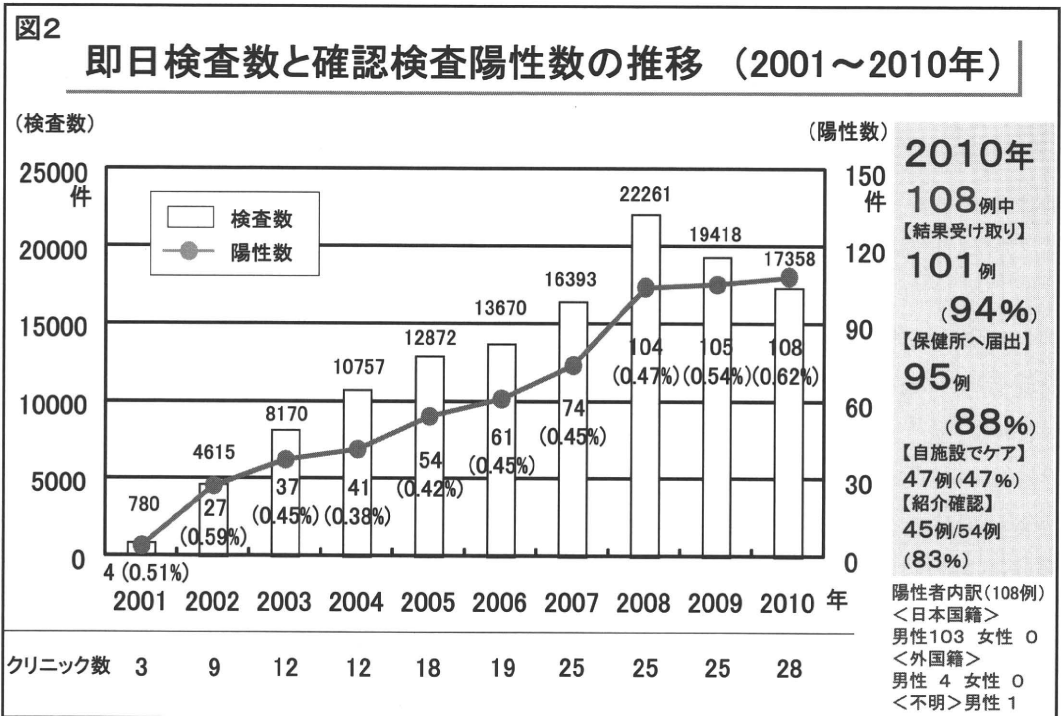
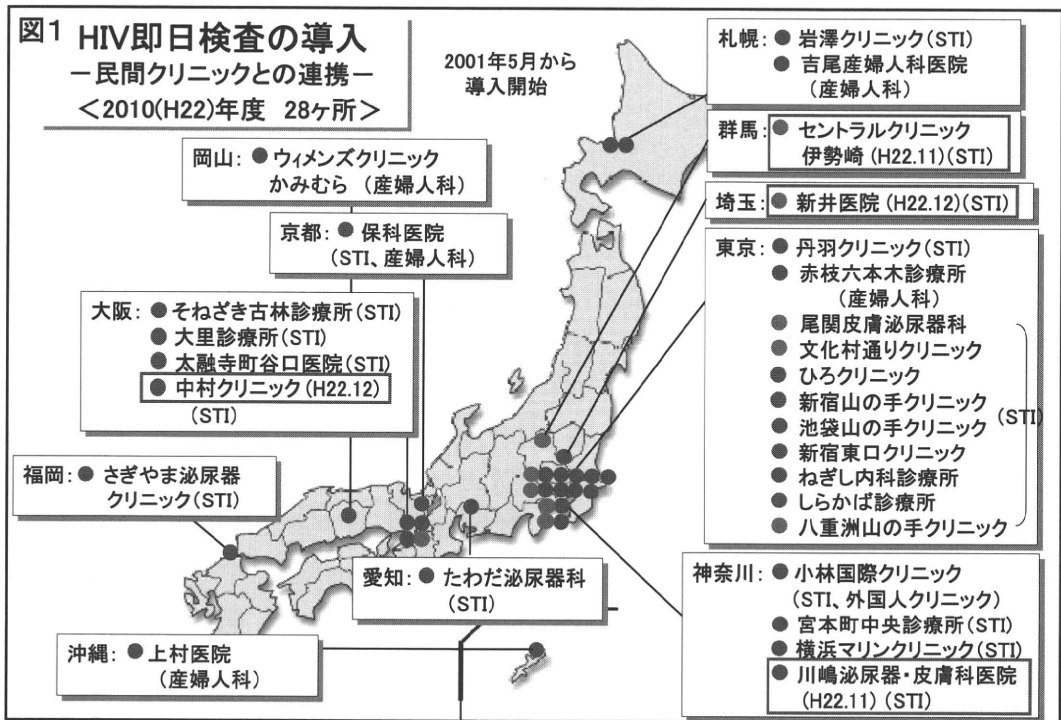


図3

民間クリニックでのHIV即日検査実施状況

<2010年>

STIクリニック

(24ヶ所)

陽性者内訳(108例)
 <日本国籍>
 男性104 女性 0
 <外国籍>
 男性 4 女性 0
 <不明> 男性 1

検査数 15915
 陽性数 108
 陽性率 0.68%

男性

検査数 11985
 陽性数 108
 陽性率 0.90%

女性

検査数 3915
 陽性数 0
 陽性率 0%

※15例は性別不明

婦人科クリニック

(4ヶ所)

検査数 1443
 陽性数 0
 陽性率 0%

男性

検査数 119
 陽性数 0
 陽性率 0%

女性

検査数 1324
 陽性数 0
 陽性率 0%

図4

即日検査数と確認検査陽性数の推移 (2008~2010年)

クリニック23か所

一昨年比 検査数80%
 陽性数109%

<2008年>

<2009年>

<2010年>

検査数 21547
 陽性数 99
 陽性率 0.46%

検査数 19125
 陽性数 104
 陽性率 0.54%

検査数 17295
 陽性数 108
 陽性率 0.62%

東京STIクリニック9か所

一昨年比 検査数82%
 陽性数129%

検査数 10717
 陽性数 65
 陽性率 0.61%

検査数 9824
 陽性数 73
 陽性率 0.74%

検査数 8815
 陽性数 84
 陽性率 0.95%

10. HIV 検査に対する態度と性感染症の知識に関する研究

研究分担者	玉城 英彦	(北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野)
研究協力者	永嶋 良之	(北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野)
	新井 明日奈	(北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野)
	神田 浩路	(北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野)
	大林 由英	(北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野)

研究要旨

HIV/AIDS 患者の早期発見や 2 次感染予防のためには、HIV 検査の受検率を上げることが重要である。そのためには、国民全体への単一的なプロモーションのみならず、年齢、性別、セクシャリティなどに応じた個別層への対策も必要である。本研究では、中学生、高校生および大学生と年齢の違う集団を対象として、HIV を含む性感染症の知識の程度と HIV 検査に対する態度との関連を検討した。

その結果、3 つの対象すべてにおいて「知識レベル」と「HIV 検査を受けようと思うか」という検査意欲に有意な関係が見られ、高知識群では低知識群に比べて「受けようと思う」と回答した者の割合が高かった。さらに、3 つの集団において異なる特徴も観察された。中学生では、低知識群において「わからない」と回答した者の割合が顕著に高く、高校生では、高知識群において「受けようとは思わない」と回答した者の割合が最も高かった。また、大学生では、知識レベルの両群において、「受けようと思う」と回答した割合が高かった。男女差はとくに認められなかった。

今回の結果から、知識レベルが高い方ほど「HIV 検査を受けようと思う」人が多い傾向が見られた。中学生においてこの傾向がとくに顕著であった。よって、少なくともこの年齢層において、HIV を含む性感染症の知識レベルと HIV 検査の受検行動には関連が認められ、若い層ほどその傾向が強かった。今後は、知識以外の要因も加味し、より詳細な分析が求められる。

A. はじめに

わが国の新規 HIV/AIDS 報告数は年間約 1,500 人に達し、2010 年 11 月時点での累積数は約 18,000 人に上る¹⁾。総人口に対する年間罹患率は約 0.001% で、他の先進国と比べるとかなり低い²⁾。しかしながら、

この数字はあくまでも感染を自覚している人の人数であり、2007 年時点での累計 HIV 感染者の報告数 9,115 人に対し、推定数は 20,000 人という報告もあり³⁾、実際の感染者数とのずれが指摘されている。

また、わが国の MSM (Men who have Sex with Men) における有病率は MSM 以外と比べて 96 倍で⁴⁾、両者の感染率に大きな差があるのも特徴である。このような状況から、感染者の全体像を把握することと、年齢、性別、セクシャリティなどによる個別層の対策が必要であると考えられる。

2009 年の新規感染者数は前年を下回ったが、同時に HIV 検査件数も約 27,000 件減少しており、新型インフルエンザ流行の影響が示唆されている⁵⁾。また、AIDS を発症してから感染が判明する割合（“いきなりエイズ”）が高いのもわが国の特徴であり、2009 年度の新規報告者の 30% を占めていた¹⁾。このことは一部、HIV 検査の受検率の低さに起因し、わが国の HIV 動向は検査受検率と密接に関連していると考えられる。

現在、わが国では保健所などで匿名 HIV 検査を無料で受けることが可能である。また、6 月 1 日～7 日を HIV 検査普及週間および 12 月 1 日～7 日を世界エイズデーにあわせエイズ予防週間に指定し、エイズ予防キャンペーンに加え、全国の保健所などで臨時の夜間即日検査の実施などが行われている。

米国では、VCT (Voluntary Counseling and Testing/利用者主導による HIV 検査相談) のほか、PITC (Provider-initiated HIV Testing and Counseling/医療者主導による HIV 検査相談) を積極的に薦めている。疫学的背景（有病率など）や社会的背景（偏見差別など）が両国では大きく異なる

るので、単純な比較は難しいが、米国の 18～22 才の推定受検率が 34.2% に対し⁶⁾、わが国の大学生の受検率は 3.5% で⁷⁾、両国の受検率に大きな違いが見られる。

受検率の低さにはさまざまな要因が考えられるが、「HIV/AIDS を身近に感じない」「関心が低い」ことも影響していると考えられる⁸⁾。いっぽうで、郵送による有料の HIV 検査の受検者数もかなりの数 (2009 年度 54,385 件、同年の保健所等の検査数 122,434 件) に上っていることや⁹⁾、保健所などにおける検査の利便性の悪さなどから受検意欲がそがれている可能性もある。

本研究では、私たちが過去に行った中学生・高校生・大学生を対象とした調査データを基に、HIV を含む性感染症に関する知識レベルと HIV 検査受検行動に関する関係性があるか、また、年齢に応じて受検行動が変動するかどうかを検討した。

B. 調査方法

表 1 に、本調査の分析対象とした過去の調査の概要を示した。中・高校生を対象とした調査は、札幌市の公立中学校 18 校に在籍する 3 年生 2,545 人および同市の公立高校全日制普通科 6 校に在籍する 2 年生 1,843 人を対象に、平成 20 年度札幌市教育委員会研究委託事業の一環として実施された¹⁰⁾⁻¹³⁾。大学生の調査では、北海道大学の学生 1,2 年生 598 人を対象にした。調査は北海道大学医学部倫理委員会の承認を得て実施された¹⁴⁾⁻¹⁵⁾。

本研究では、前述の調査データから、「HIV/AIDS を含む性感染症に関する知識」および「HIV 検査」に関する項目を抜き出し、「知識に関する質問項目全問回答者」を対象として、彼らの知識項目を「正解=1点・不正解およびわからない=0点」と点数化し、個人の得点および全体の平均点を算出した。その上で「平均点以上=高知識群、平均点未満=低知識群」と分類し、「知識レベル」と「HIV 検査に関する項目」の関連を検討した。また、分析には SPSS version14.0 を用いた。

本調査の分析対象者数、「HIV/AIDS を含む性感染症に関する知識」の質問数、および平均点を表 2 に示す。また表 3 に、本研究で用いた各調査の「HIV/AIDS を含む性感染症に関する知識」に関する項目の内容を記載した。

C. 結果

1. HIV 検査は、保健所で無料匿名で受けられることを知っているか (表 4)

すべての対象において知識レベルが高いほど、「知っている」割合が高かった。中学生で「知っている」と回答した者の割合は高知識群 54.0%に対して低知識群 26.1%、「知らない」と回答した人の割合は高知識群 43.1%、低知識群 64.8%であり、知識レベルとはっきりとした対応が見られた。高校生においては「知っている」と回答した者の割合は全体として高く、知識レベルとの対応においては中学生と同様の傾向が見られた。大学生においては、「HIV 検査は無料匿名で受けることができる」という問いに対し正誤を問う質

問であったので、中・高校生と一概に比較することは難しいが、低知識群 (25.7%) では高知識群 (2.7%) に比べて「わからない」が約 10 倍高いことが特徴である。

2. 今後 HIV 検査を受けようと思うか (表 4)

すべての対象において知識レベルが高いほど、「受けようと思う」と回答した者の割合が有意に高かった。中学生においては、知識レベル両群ともに、「わからない」が最も高く、とくに低知識群において、半数以上の者が「わからない」と回答していた (58.7%)。高校生では、中学生の結果と異なり、高知識群において、「受けようとは思わない」と回答した人数が最も多かったのが特徴的であった。また、大学生では、知識レベル両群とも「受けようと思う」と回答した者の割合が高く 40%を超えており、中・高校生と比較して、「わからない」と回答した者の割合が低かった。

3. HIV 検査を「受けようとは思わない/わからない」と回答した理由 (中・高校生の知識レベル別) (図 1)

前述の「今後 HIV 検査を受けようと思うか」という質問に対し、「受けようとは思わない」と回答した者の理由として、中学生の高知識群と低知識群ではそれぞれ、「感染しているとは思わないから」が 69.4%、62.5%と最も高く大きな違いはなかったが、同様の質問に「わからない」と回答した者のうち、低知識群ではその理由を「その他」(39.3%) とした割合が最も高く、「無回答」と合わせると約 5 割

を占めていた。高校生では、HIV 検査を「受けようとは思わない」と回答した者のうち、高知識群では 80.6%、低知識群では 70.6%が「感染しているとは思わないから」という理由をあげていた。また、中学生と同様、低知識群で HIV 検査受検について「わからない」と回答した者の理由では、全体の 35%が「その他」あるいは「無回答」であった。

4. HIV 検査に関する考え方(大学生のみ対象) (表 5)

性感染症の知識と HIV 検査に対する考え方の関連について検討すると、「検査結果を知ることが怖い」と回答した者（「とてもそう思う/そう思う」）は全体 50.3%、高知識群 53.1%、低知識群 45.2%で、知識レベルに大きな違いは認められなかったが、低知識群では「わからない」という回答が多く（16.1%）、知識レベルの両群間で回答分布に有意な違いが見られた。「検査を受けることを他の人に知られたくない」と回答した者の割合は上記の「怖い」と回答した者より多く（全体 59.2%、高群 62.9%、低群 52.6%）、上記同様、低知識群における「わからない」の割合（15.1%）が高い傾向にあり、全体として両群の回答分布に有意な違いが認められた。いっぽう、「検査を受けることを性的な関係にある人に話す」割合は全体 59.4%、高知識群 61.0%、低知識群 56.5%であったが、回答分布において両群間に有意な違いは見られなかった。

すなわち、知識レベルの高い大学生は低い者に比べ、「検査結果を知ることが怖

い」、検査を受けることを「他の人に知られたくない」「性的な関係にある人に話す」という回答が多いことがわかった。

D. 考察

中・高校生において、知識レベルが高い群では低い群よりも「HIV 検査を受けようと思う」割合が高いものの、中学生では「わからない」割合が 50%を超え（高校生 40.4%）、いずれも知識レベルが低い群でその割合が高かった。大学生でも全体的に「受けようと思う」割合は約 45%で、半数にも満たない。また、「わからない」と回答した者の割合は 2 割にも達し、知識が十分に普及していないことが示唆された。このように、中・高校生・大学生において、知識の高い群では低い群に比べて、HIV 検査受検行動により積極的であり、知識の影響がうかがえるが、「受けようとは思わない」「わからない」が大学生でも 5 割を超え、さらなる知識の普及が必要であると同時に、知識以外の要因についても検討することが必要であろう。また、これらの年齢別の分析から、より早い時期から性感染症についての正しい知識を持つことが、自発的な HIV 検査の受検行動を促す、より重要な要因となりえる可能性が示唆された。

さらに、HIV 検査を「受けようとは思わない」「わからない」と回答した理由に関して、知識レベルの高い者は「感染しているとは思わないから」との回答割合が高く、逆に知識レベルの低い者は「その他」が高いことから、知識レベルが高い者では、適切な予防法を実践している（もし